

『さっきゃま魂』

R4. 7. 20 第6号

発行人：校長 中山 末永

1 学期の成長 ～ 大満足のフィニッシュ ～

始業式から71日間、入学式から69日間の1学期でしたが、ふり返ると「あっという間の1学期だったなあ～」と感じています。短く感じるということは、毎日が楽しく充実していたとも考えられます。日々、成長していく40名の子ども達を見ることができ、大満足の1学期でした。

終業式の中では、子ども達の成長について次のような話をしました。

【自主の心：善悪を判断し、正しいと信じることを進んで行う。】

子ども達の学習の様子を見て感じることは、張り切って手を挙げ、堂々と発表する子どもが増えてきたということです。また、算数の時間などは前に出て説明する機会も多くありますが、その時も自分の考えを分かりやすく丁寧に伝えられるようになってきました。このような姿が見られるようになった要因の一つとして、周りの子ども達の聞き方が良くなったことが考えられます。

「自分の考えを一生懸命聞いてくれる友達がいる。」「自分の考えがみんなと違っていても認めてもらえる。」など、そのような学級の雰囲気や安心して話せる子どもを育てているのだらうと思います。小規模校は、一人ひとりが活躍する場面をたくさん設定することができます。経験を重ねることによって、「自信」を持って話ができるようになってきたと思います。



【自主】進んで発表（授業中）

【友愛の心：思いやりの心もち、互いに励まし合い、助け合う。】

子ども達の様子から「ふわふわ言葉」を遣う子どもが増えたと感じています。困っている友達に、「大丈夫？」と優しく声をかける子ども、優しくしてくれた友達に、「ありがとう。」と嬉しそうに答える子ども、互いの「優しい気持ち」が行ったり来たりすることで、これまで以上にみんなが仲良くなれた気がしています。



【友愛】仲良く遊ぶ（歓迎遠足）

【錬磨の心：目標をもって、くじけず努力し、粘り強くやり抜く。】

今年度も毎月1回（7月・9月以外）持久走記録会を実施します。記録会では、いつも最後まで諦めないという必死の走りを見ることができ、コロナ禍にも関わらず、つい大きな声で応援したくなってしまいます。頑張って走り抜き「新記録」を出す子どももいれば、目標に届かなかった子どももいます。大切なことは、記録を出すことよりも記録を出すために頑張りを続けることだと思います。努力を続ける子どもが育ってきていることを嬉しく思っています。



【錬磨】諦めない走り（持久走記録会）

【勤労の心：働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。】

掃除の時間の合言葉は「もくもく掃除（時間いっぱい・すみずみまで・丁寧に）」です。子ども達の中にも、この取組が少しずつ浸透し、20分間の掃除に黙々と取り組む子どもが増えてきました。汗をだらだら流しながら、丁寧に雑巾がけをしている姿をたくさん見ることができました。40名の子ども達と職員によって、少しずつきれいな学校になってきたと感じています。

この1学期も、「さっきゃま魂」にこだわることで、子ども達の心と言動に大きな変化があったことをとても嬉しく思っています。これまで同様、コロナ禍の教育活動でしたが、様々な手立てを工夫することによって、実り多い1学期を過ごすことができました。改めて、保護者の皆様・地域の方々のご協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。